

# 鳴立庵だより

鳴立庵とは、江戸時代から続く俳諧道場でござる。

初代庵主大淀三千風が開き、現在では京都の落柿舎、滋賀の無名庵と並び日本三大俳諧道場と呼ばれているでござるよ。



鳴立庵大使「えんいくん」

## 今月の俳句1

陽だまりの中へ中へと寒雀

愛知県立時習館高等学校

山田 ひなの

## 今月の俳句2

指文字の「の」まで覚えて  
春近し

岩手県立水沢高等学校

引地 佳歩

## 今月の短歌

背が高くなつた気がして歯磨きをする兄の横また立つてみる

星野高等学校（埼玉県）

齊藤 菜

広告

**ハロウインジャンボ5億円**  
(1等3億円・前後賞各1億円含む)

**ハロウインジャンボミニ5,000万円**  
(1等3千万円・前後賞各1千万円含む)

この宝くじの収益金は市町村の明るく住みよいまちづくりに使われます。

**9月17日火 2種類同時発売!** 発売期間 9/17火～10/17火  
抽せん日 10/25金

公益財団法人神奈川県市町村振興協会 各1枚 300円

季題は「寒雀」。寒中（小寒から節分までの約一ヶ月）の雀である。他にも「寒鶲」・「寒鯉」などもある。「雀」は人間に最も近く暮らす小鳥だが、「米」を食うのを嫌われもする。「舌切り雀」の童話などにその辺りの事情が反映している。さてその「寒雀」を詳しく観察してみると、冬の貴重な「日差し」を恋うて群れる姿が見えてくる。この句でも「陽だまり」の中心部分に向かって「雀」たちが、「チユンチユン」鳴きながら寄り集まつて来る姿が描写されている。

（鳴立庵庵主 本井 英）

季題は「春近し」。一月初旬の「立春」が、もうすぐ、そこまでやつて来ている頃である。「指文字」は指の形で「あいうえお」を表す形。所謂「手話」に比べて、一音一音に対応しているので正確な部分もあり、「手話」との併用で聴覚の不自由な人々の役にたっている。その「指文字」を「の」まで覚えたというのであるから、まだまだ学習も道半ば、という感じられます。「歯磨き」という何気ない日常、「また」という繰り返しに、兄への敬意とそれに近づく歓びが感じられます。

（西行祭選者 今井 恵子）

講座の申込み・問合せ 鳴立庵 ☎ (61) 6926

講師 対象 定員 費用

講座名	日 程	時 間	備 考
伝 筆	9月22日(日)	10:30～正午	温かみのある文字が書けるようになる筆文字教室 講認定講師わでん伝筆マスター 宮前 礼子氏 対中学生以上 定10人 費3,850円(材料費込)
座 禅	9月28日(土)	13:30～14:30	姿勢・呼吸・心を整えます 講豊田 素道氏(慶林寺住職) 定10人 費500円(入庵料込)
茶と遊ぶ	10月 5日(土)	10:00～正午	みちかぜ茶会～香りのあるお茶を楽しもう～ 講高野 幸代氏 定10人 費2,000円(お茶菓子付き・入庵料込)